

神戸視力障害センター屋内消火栓設備消火ポンプ更新工事

## 仕様書

国立障害者リハビリテーションセンター

自立支援局神戸視力障害センター

## 1 目的

本工事は神戸視力障害センター（以下センター）の教室棟北側にある屋内消火栓設備消火ポンプの更新工事を行うものである。

## 2 工事概要

センターの教室棟北側にあるポンプ室内に、屋内消火栓設備用消火ポンプが設置されているが、老朽化により漏水が発生し、正常な放水能力が発揮できない状況であり、非常時の消火能力が担保できない為、設備更新を行うものである。なお、更新にあたっては別添の機器明細書に記した能力以上の設備を設置することとし、機器仕様にあたり吐出側は既存の配管を使用し、更新費用を抑えたものとする。

## 3 作業条件

本工事は、平日日中工事とする。

ポンプ室以外の共用廊下・居室内での作業は十分に関係者と協議を行い、必要な場合は閉庁日である休日に実施すること。

## 4 作業にあたっての留意事項

- ・作業にあたっては、庁舎建物や物品等を汚染又は損傷しないように留意して行うものとし、必要に応じて養生等を行うものとする。なお、汚染又は損傷した場合は速やかに申し出を行い、受注者の負担において補修等を行うものとする。また、室内の備品等の移動が必要な場合は、受注者の責任により移動復旧を行うものとする。（当センターの利用者及び職員については、視力に障害がある人が多数いることに十分留意して、復旧を行うこと）

- ・従業員や作業員に対し、出勤前に体温測定や感染症が疑われる症状がないか確認すること。作業中に体調が悪くなった者は、必要に応じ直ちに帰宅させ、作業には関わらせないようにすること。また、マスクの着用や手洗いを徹底すること。

- ・敷地内は全面禁煙とする。

## 5 貸与等

作業にあたり電力及び水道等が必要となる場合は、施設に備え付けられている設備から無償で利用できるものとする。

## 6 発生材料

作業に伴い発生した廃材等については受注者の責任において適切及び適法に処分を行うものとし、その処分結果について発注者に通知するものとする。

## 7 事故防止

受注者は安全管理及び事故防止に万全を期するのは勿論のこと、工事期間中に事故等が発生した場合は、所要の措置を速やかに講じるとともに、原因及び経緯を速やかに発注者に報告すること。

## 8 施工管理

受注者は、施工管理体制を確立し、品質、工程及び安全等が担保された施工管理を行うものとする。

## 9 工事写真

使用材料、施工前、施工中及び完成の工程が判るように写真を撮影し、当該工事の施工が完了した後に、アルバムを1部提出すること。

## 10 消防検査

受注者は所轄消防署と事前協議を行い、消火ポンプ更新に伴う指示事項は受注者の負担に基づき各種届出書類及び施工を実施すること。

検査完了後、完成図書は1部製本し、電子データと共に提出すること。

## 11 特記事項

- ・消火水槽は既設とする。
  - ・更新する消火ポンプの性能は既設と同等又はそれ以上とする。
  - ・ポンプ室上部にある既設呼水槽は撤去し、呼水槽付き消火ポンプとする。
  - ・消火ポンプユニットとし、フート弁を交換すること。
  - ・放水圧の軽減の為、減圧アダプターを14カ所設置し、適正に放水圧を調整すること。
- ただし、放水圧確認後最低放水圧に満たない場合はその限りではない。
- また、放水試験を実施した際に既設配管の破損・漏水等は本工事の責任の範囲外とする。
- ・耐震用フランジも同様に、所轄消防署と協議し適宜対応すること。
  - ・既設呼水槽よりポンプ室内で接続されている充水配管は撤去し、ポンプ室東側壁はモルタル等で埋め戻しすること。
  - ・性能試験配管・オーバー管・排水管はコア(65φ)抜きし、消火水槽に溜水を戻すこと。
  - ・既設制御盤は撤去すると費用が高額になり、ブランク仕様にするメンテナンスが出来ない為、表扉のみ撤去し特注の表扉(1195mm×W650mm×3.2t 塗装仕上げ・蝶番式開閉扉・ハンドル鍵付き・盤銘板・施工会社銘板)を作成し、消火ポンプ用の配線等を接続し、新しい制御盤へ配線をする仕様とし、再利用とする。

- ・ポンプ室内既設ジョイント BOX2 箇所、蓋を取付すること。
- ・ポンプ室内が結露により天井面の鉄筋が腐食し、モルタルが爆裂している為、消火ポンプ等に損傷が発生し、使用できない状況にならないよう、あらかじめ天井面を打診・ケレンし、劣化モルタルを除去後、防錆ペーストを塗布し浸食防止に努めること。
- ・結露防止用に既存設備として、換気扇が設置されており、更新にあたり 200V を 100V に変圧が必要な為、漏電ブレーカーを増設し、変圧器を設置し、接続すること。
- ・ポンプ室内・ポンプ室外壁給水配管ラッキング SUS・保温工事を行うこと。
- ・警報工事は、自動火災報知設備を警報盤とし、消火水槽・呼水槽・消火補給水槽の減水を直ぐに確認できる状態に接続すること。
- ・ポンプ室付近の外回りに設置されている圧力計 1 ヶ所交換すること。
- ・屋上補給水槽に屋内消火栓設備・スプリンクラー設備の補給水槽である表示をすること。
- ・制御工事は、自動火災報知設備の発信機を始動装置とすること。
- ・非常時に電源喪失後、自家発電設備に切り替え放水作業に支障がないようにすること。
- ・消火ポンプ更新後、エア抜き調整作業を実施すること。
- ・その他所轄消防署より、別途仕様の指示があった場合は、受注者の責任のもと施工すること。

## 1 2 その他

本仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部作成の「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）」によること。本仕様書は本工事の基本的内容を定めるものであり、本仕様書に明記されていない事項であっても施設の目的達成のために必要な設備又は性能を発現させるために当然必要と思われるものについては、仕様書に明記されていない事項であっても受注者の責任において全て完備しなくてはならない。

なお、疑義が生じた事項については、発注者と協議の上決定するものとする。